

## 1 ねらいとする道徳的価値

中学生の段階は、様々な体験を通じて自然の美しさや自然に癒される自己に気付くようになる。また、人間の力を超えた自然の崇高さを感性と理性の両面で捉えるようになる。それらを踏まえ、人間と自然との関わりを多面的・多角的に捉え、自然と謙虚に向き合い、愛し、守っていこうとする態度を育む。〔内容項目：自然愛護〕

## 2 教材の概要

本教材は、1992年にリオデジャネイロで開催された地球環境サミットにおいて、子供の環境団体の代表として当時12歳だったセヴァン・カリス＝スズキさんが行ったスピーチの一部を取り上げたものである。オゾン層にあいた穴、死んだ川、絶滅した動物、失われた森、それらを元に戻すすべを知っているのかと、12歳の少女は強く問い掛ける。その言葉は、サミットに参加していた各国の首脳や大臣たちを圧倒し、「伝説のスピーチ」と呼ばれた。人間の営みがどれほど多くの自然を犠牲にしてきたか、そしてそのことに、いかに多くの人間が無関心であるか、自分たちと同世代の少女の言葉に気付き、自分たちと自然との関わり方について、深く考えることができる教材である。

人間が自然の中で生かされている存在であることを改めて自覚し、謙虚に自然に向き合い、進んで自然の愛護に努めていこうとする態度が育成できるよう、本教材を活用する。

## 3 環境教育で育成する主な資質・能力（ESDの視点）

【キ 合意を形成しようとする態度（他者と協力する態度）】

自らの生活の中にある環境問題に着目し、相手の立場や考えを理解し、他者と協力して問題を解決しようとする態度を育てる。

## 4 環境教育で対象とする主な内容（ESDの構成概念）

【C 生態系の保全（責任性）】 【H 生活様式の見直し（責任性）】

地球上の生物は、植物や動物から微生物に至るまで、それらを取り巻く土壌、水、大気、太陽光などの非生物的環境との間の相互関係からなる自然の生態系を構築している。生活様式を見直し、生態系の保全に寄与することを通して、自然と調和して生きようとする視点を扱う。

## 5 主なSDGsとの関連



（目標8）経済成長と環境悪化の分断を図る必要がある。そのため、本単元の指導に当たっては、（目標12）持続可能な生産消費形態を確保しながら、（目標13）気候変動及びその影響を軽減することも視野に入れる。また、（目標15）陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止することにもつながっていく。

## 6 本時の展開例（1/1時間）

○主な学習活動 ・ 予想される生徒の反応	□主な支援 ◆主な評価 〈環境教育で育成する主な資質・能力〉
<p>「現在、地球を取り巻く環境問題には、どのようなものがあるだろうか。」</p> <p>○東京都道徳教育教材集中学校版「心みつめて」 p.36・37「You don't know how to …（オゾン層にあいた穴を…）」を読む。</p> <p>○映像資料「12歳の少女・伝説のスピーチ」を視聴する。</p> <p>「ガンにおかされた魚や絶滅していく動物たちのことを知った時、セヴァンさんはどのような気持ちになったのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動物たちが死んでしまったり絶滅してしまったりしていかなければならないことが納得できない。</li> <li>自分も人間である以上、自分にも責任があることが苦しい。</li> </ul> <p>（中心となる発問）「セヴァンさんは、なぜこのようなスピーチをしたのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今、行動を起こさなければ手遅れになってしまうと考えたから。</li> <li>未来の世界に美しい自然を残し伝えなければならないと思ったから。</li> <li>人間は自然の恩恵を受けなければ生きていけない存在だから。自然がなくなったら人間も生きていけないから。</li> <li>自然を守るため、今の自分にできることを全力でやろうと思ったから。</li> </ul> <p>「セヴァンさんの生き方を通して、『自然愛護』について考えたことや学んだことをまとめよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然を破壊することは、人間の暮らしを破壊することと同じだ。</li> </ul> <p>○「心みつめて」 p.168・169「㊟自然とともに生きる」を読んで、自分たちはどのように生きていくべきなのかについて考える。</p>	<p>□生徒が知っている環境問題を挙げさせ、ねらいとする道徳的価値への関心を高める。</p> <p>□範読する。</p> <p>□当時12歳だったセヴァン・カリス＝スズキさんが1992年にリオデジャネイロで開催された国連の「地球環境サミット」で行った「伝説のスピーチ」について説明する。</p> <p>□セヴァンさんの驚きの大きさや悲しみの深さに共感させる。</p> <p>□セヴァンさんの自然を愛する気持ちや、このスピーチに込めた思いに共感させながら、自分のやるべきことに全力で取り組もうとしている姿を、自分との関わりの中で考え、議論させる。</p> <p>◆セヴァンさんのスピーチを通じて、自分自身と自然との関わりについて見つめ直し、人としてどのように自然と向き合っていくべきかについて深く考え、実行していこうとしている。</p> <p>〈ケ 自ら進んで環境の保護・保全に参画しようとする態度〉</p> <p>□「自然を守る」とはどのようなことなのか、人間と自然とはどのように関わっていけばよいのかという視点から、考えをまとめさせる。</p> <p>□スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥンベリさん（当時16歳）に触れることもできる。</p>



You don't know how to fix the holes in our ozone layer.  
 You don't know how to bring salmon back to a dead stream.  
 You don't know how to bring back an animal now extinct.  
 And you can't bring back the forests that once grew where there is now a desert.  
 If you don't know how to fix it, please stop breaking it!

Severn Cullis-Suzuki



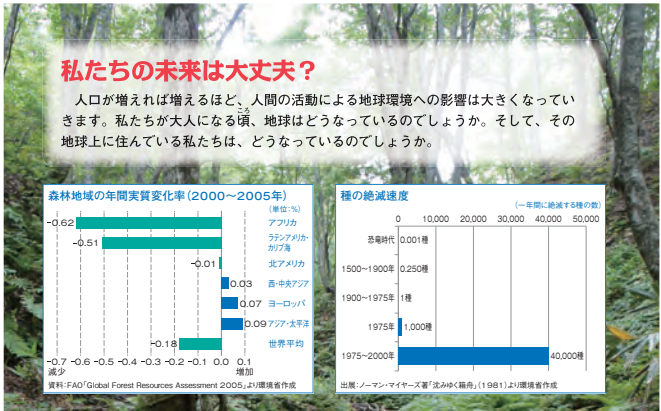
1992年、リオデジャネイロで開催された環境サミットで、子どもの環境団体の代表としてスピーチをするセヴァン・カリス＝スズキ  
 写真提供/ナマケモノ倶楽部



オゾン層にいた穴をどうやってふさぐのか、あなたは知らないでしょう。  
 死んだ川にどうやってサケを呼びもどすのか、あなたは知らないでしょう。  
 絶滅した動物をどうやって生きかえらせるのか、あなたは知らないでしょう。  
 そして、今や砂漠となってしまった場所にどうやって森をよみがえらせるのか、あなたは知らないでしょう。  
 どうやって直すのかわからないものを、こわしつづけるのはもうやめてください。

セヴァン・カリス＝スズキ

『あなたが世界を変える日』12歳の少女が環境サミットで語った伝説のスピーチ  
 (セヴァン・カリス＝スズキ 著 ナマケモノ倶楽部 編訳)



持続可能な社会を実現するために

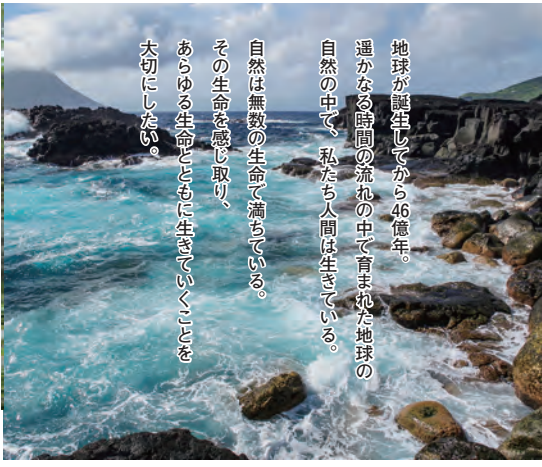
「持続可能」とは？

「持続可能」とは、今の地球環境が保たれたまま、未来まで続くということです。地球環境を、現在の私たちだけでなく、未来の人も豊かに暮らすことができる状態に保つこと、それが「持続可能な社会の実現」です。  
 現在、さまざまな人間の活動が、地球自体の回復力を大幅に上回る勢いで、地球環境に影響を与えていると言われています。私たちの次の世代、そのまた次の世代の人たちも地球の上で豊かに暮らすためには、地球環境を守り、大切に手渡していかなければならないのです。

持続可能な社会を実現する上で、大切なことはなんだろう。考えたことを書いてみよう。

調べてみよう

現在、「みんながずっと地球に住み続けられるようにする」、「みんなにとって幸せな未来にする」ための17の目標「SDGs(エス・ディー・ジーズ 持続可能な開発目標)」を掲げた取組が世界規模で行われています。どのような目標や取組か、調べてみよう。



地球が誕生してから46億年。遙かなる時間の流れの中で育まれた地球の自然の中で、私たち人間は生きている。自然は無数の生命で満ちている。その生命を感じ取り、あらゆる生命とともに生きていくことを大切にしたい。

自然愛護  
 D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること  
**20 自然とともに生きる**

私たちは、自然とどのようにかかわっていけばいいのだろうか？

年 月 日

年 月 日